

平成31年度 第3回 大阪府立かわち野高等学校 学校運営協議会 議事録

日 時：令和2年2月21日（金）15時30分～16時50分

場 所：アクティブラーニング室

1. 参加者

委 員 4名

事務局 13名

2. 報 告

- ・学校説明会実施状況
- ・平成31年度学校教育自己診断について

3. 協 議

<平成31年度学校経営計画、令和2年度学校経営計画策定について>

- ・今年度は、授業公開や授業見学を、年間を通して実施することができなかった。次年度は1学期より計画的に実施していき、かわち野今後検討PTと連携しながら進めていく。
- ・部活動の活性化において、新入生対象の体験入部では多くの参加があり手ごたえを感じたが、入部は少なかった。
- ・雨の日の自転車による登下校は、8割は傘をさして自転車に乗っており、危険。下足室に雨ガッパをつるすスペースを作ることを検討している。
- ・スクールカウンセラー相談や、スクールソーシャルワーカーによる支援体制の導入、外部機関との連携、実践的な職員研修などの新たな試みの積み重ねが成果をあげている。
- ・1年生では例年に比べ、おとなしい生徒が多い、意欲に乏しく積極性に欠ける、定員割れの影響で基礎学力が身につけていない生徒が多い印象があった。すべての生徒たちがうまく学級になじめるよう、ホームルーム等を工夫しなければならないという必要性を感じた。また、例年より早い段階で、転学や退学的意思を示す生徒が多かった。
- ・2年生では、携帯電話の扱い方等で、モラルに欠ける事案が生じた。ホームルームや行事、個別指導等を通して、当たり前のことを当たり前にするという当初からの目標に向かって、一貫性のある指導を続けていく。
- ・3年生は、身体的・精神的に不安を抱える生徒が複数在籍した学年であったが、教員間の綿密な情報共有と丁寧な指導を継続し、生徒たちの卒業・進路決定につなげることができた。

### 【委員からの意見・提言】

- ・生徒の遅刻が減少しないという現状に対して、生徒指導の在り方や進め方を教員同士で話し合い、取り組む必要がある。これまで、遅刻を繰り返し行う生徒に対して、奉仕活動や対話による指導を通して改善に努めてきたが、遅刻回数が減少することはなかった。次年度以降も対話による指導を重視して、教員全体で改善に努めなければならない。
- ・遅刻に関しては、家庭を巻き込んで対応しなければ、改善に向かわないのではないかと。心折れずに取り組みを続けてほしい。
- ・定員割れがあった本校では、「地域に根ざした学校づくり」が一番の課題であり、より積極的にアピールしていかなければならない。少子化社会の中で、なんとか地域の応援を頂けるような取り組みをしてほしい。
- ・転学を希望する生徒が多数いたということは学校に魅力がなかったということなのだろうか。転学は生徒の人生に大きく影響することなので、一人ひとりの性格に合わせて転学先を選んでほしい。転学先でも失敗したら立ち直れないこともありうる。
- ・学校教育自己診断のアンケート結果より、多くの項目で改善が見られた。しかし2年前には及ばない結果に終わっている項目も多かった。昨年度、結果が落ち込んだ原因を突き止めれば改善できるのでは。
- ・学校の在校生たちが充実した高校生活を送り、いい印象をもって卒業することで、卒業後にいい印象が広まって定員割れの改善にもつながるだろう。
- ・部活など勉強以外の活動への参加を促す事、それを活力にして社会に出てからも活躍してほしい。
- ・令和4年度実施の新学習指導要領によるカリキュラムについて最大の受益者は生徒であることを忘れずに作成しないといけない。
- ・探求の科目は、ワンチームになるきっかけとなるので、期待できる。
- ・退学者を減らす取り組みも必要。
- ・地域に根ざした学校をつくるべき。そのためには、地域とのつながりをつくり、地域の応援をいただく必要がある。
- ・多様な生徒が入学している中で、指導の在り方を考えなければならない。単に叱ったり罰を与えたりするのではなく、生徒の特性を理解して個々のケースに応じた指導をしてほしい。

○平成31年度学校経営計画、令和2年度学校経営計画策定について承認された。